

憲法「九条の会」アピールに賛同する 第4号 2008年2月発行

愛知・大学人ネットワークNews

(巻頭の言葉)

ねじれの二重構造 —福田内閣で改憲はどう進む

小林 武 (愛知大学)

2008年へと改まった、本来は成人の日の1月15日、2度の会期延長で年を跨った臨時国会が閉会し、すぐ3日後から第169通常国会の長期戦が始まっています。

その間、昨年7月の参院選での民主党勝利で参院は野党が多数派となり、衆参「ねじれ」現象が生まれています。こうした中で発足した福田内閣は、安倍前内閣の「憲法改正で美しい国へ」の看板は下ろし、協調・大連立姿勢に転じました。改憲動向は、一見「風」に入ったかのような感を呈しています。これをどう捉えるべきでしょうか。

「ねじれ」は、わが国では稀ですが、それ自体は、第一院・第二院とも国民代表議院である国で、民意が変動しているときには当然に生じる普通の現象です。その場合の憲法上のルールは、国会は直近の選挙で形成された議院の意思を優先させるべし、というところにあります。

憲法は衆院を優越させていますが、これは、解散、つまり機動的に主権者国民の審判を求める機会を衆院に設けたからにほかならず、民意によって政治をおこなうという国民主権原理にもとづくものです。したがって、現今では、衆参の意思が相反した場合、直近の民意を受けた参院を尊重すべきであり、憲法59条の、衆院が3分の2で再可決する例外的手段は、発動の余地がありません。

この「ねじれ」は、昨年選出の参院議員の任期6年の間続くと予測されています。途中で参院の半数改選がありますがそれでも状況は変わるまいといわれ、衆院総選挙で民主など野党が過半数をとる可能性も低いと見る者は「大連立」に走ります。こうした今の「ねじれ」状況下では、民主党がどのような態度をとるかがポイントです。同党には先の参院選で、

憲法九条を守る人々の票が多く投じられているだけに、そうした世論に背を向けることはできないはずだ。

よりつきつめれば、わが国では、真の「ねじれ」は自・民と国民の間にあり、その解消こそが本質的課題だといえるのではないのでしょうか。この2つの党は、政治の大本において同根で、軍事では自衛隊海外派兵の恒久法づくり、生活では消費税率引き上げなどの方針を共有しています。だからこそ、大連立がたえず動き出すのでしょうか。こうして、わが国の「ねじれ」の二重構造を指摘することができます。

福田内閣の改憲路線も、民主との協働を前提にして進められるものと考えられます。今国会の施政方針演説では、「憲法に関する議論の深化」を呼びかけました。福田氏自身、05年の自民党新憲法草案づくりでは九条関係の小委員長をつとめた改憲派です。改憲手続法はすでにつくられているのですから、大連立の底流の中でいつ動き出すか知れません。

「安倍より手強い」（加藤周一さんの、昨年11月九条の会全国交流会での言）福田氏の手法を正面から見据えて、九条の会も歩みを進めていくこととなります。

(2008.1.23 記)

郡山総一郎講演会開催

愛知・大学人ネットワーク事務局は、名古屋大学職員組合と共催で、郡山総一郎さんの講演「なぜ戦争をしてはいけないのか、戦争の後になにが生まれ何がのこるのか」を、昨年12月1日に名古屋大学で開催しました。以下講演内容と参加者の感想文を掲載します。

講演概要報告

カンボジアに足をはこぶと、戦争や地域紛争が、後々まで社会になにをもたらすかというものの、ある意味で典型的な事例が見えてくる。まず、郡山さんは、このことを丹念に明らかにしている。彼の講演の要旨は次のようなものであった。主要産業である農業の基盤の脆弱さと残存地雷の問題は、この国の深刻な貧困の背景である。北西部にある小さな村を訪ねた。なんと集落の真裏から地雷原が広がっていた。井戸がなく、人々は毎日、地雷原を通して水を汲みに行かねばならない。井戸は日本円で2～3万円あれば掘れる。だが、この村にはそのお金がない。地雷被害者の多くは、農業、漁業、牧畜などに従事する人々であり、命が助かっても働けなくなることが多いし、障害者に対する偏見も根深い。

国境地帯を中心として子供の人身売買が行われている。一人50ドル。それが子どもたちの値段だ。売春も行われている。買春する観光客の大半は日本人（それも若い大学生が多い）といわれている。HIVに感染する人が後を絶たない。背景の一つは、このウイルスに

ついで基礎知識が普及していないことがあげられるが、発病をおさえる薬は、月 60 ドルかかる。これは、貧困層には、年間収入を超える金額である。貧しさが「生きる権利」をおしつぶしている。この国が抱えている問題は、たとえば、そんな風にひとつつながりになっていて、その始まりに戦争が位置づけられる。農民たちが、とにかく昔のカンボジアに戻してくれと言う所以である。この国に、もう一つ強い影響を与えているものがある。外国資本の流入を含めた急速な市場化である。今のこの国の経済成長を支えているのは観光であり、外国人観光客を主な対象にした娯楽・レジャー産業、商業がおこっている。その流れのなかで、カジノや性産業も広がっている。だが、主要産業の農業の収益率が低く、国民の 4 割が貧困ライン以下の暮らしをしているなかで、こうしたバランスのとれない市場化が進めば、貧富の格差がますます進行し、貧しい人々は一層貧しくなってしまうのではないか。

タイ南部の少数民族でイスラム教を信じる人々が、政府によって抑圧されている問題についても、報告された。

講演終了後、活発な質問と討論が行われた。講演会の参加者は 43 名で、カンパをしてくださった方もおられた。
(事務局記)

参加者の感想

(大学教職員)

今日の講演で改めて痛感せしめられたことは、以下の 2 点です。

一つは、殺し合いからは悲劇しか生まれえないということ。国家の戦争が「合法的人殺し」ということは良く言われますが、正義の戦い、正当防衛としての闘い（戦い）も気持ちは分かりますが、やはり憎しみの連鎖を生むだけのように思います。そしてその悲劇のしわ寄せは、女性や子供が負うこととなります。

二つ目は、世界的な規模で拡大する貧富の格差です。世界の 1 - 2 割のある人たちの、ある地域の、ある国の豊かさと自由は、8 - 9 割の人たち、地域、国の悲劇の上に成り立っている現実を見ますと、ヨーロッパ中世に立ち戻ったかのような、その意味では、歴史は進歩していないなという実感をもちます。郡山さんがまとめられたように、発言する条件があるうちに、言いたいことを言ってゆきたいと思います。ありがとうございました。

(大学非常勤講師)

子供の人身売買、売春の話が心に残りました。セックスツーリストの 8 割が日本人という数字はショックでした。国連兵士と売春少女の蠟人形は国連について考えさせられました。(国連以外に何を頼りにしたらいいのか?) 『民族紛争』の根底には、人間が持っている憎しみとか、だれもが持っているものがある。」とか「戦争は人災だ」という言葉には重みがありました。日本の低レベルなマスコミだけを見ていたのでは実感することの出来ない「現実」を郡山さんの撮った写真によって感じる事が出来ました。ご自身の体を張って、ご自分の見たもの、知ったことだけを信じるタフな郡山さんの姿勢に関心させられま

した。私は、日本語教師としてアジア等からの留学生を教えてきましたが、彼らの国の抱える問題の複雑さ、日本との関係について改めて考えさせられました。ありがとうございました。

(大学生)

今回お話を聞いた中で、貧困や戦争の生み出すものを垣間みたような気がしました。特に、子どもたちが麻薬やシンナーをしていたり、リストカットをしたりせざるを得ない感情、そうになってしまう状況は印象に残りました。日本でも、麻薬やリスカはあるけれど、日本とは性質の違うもので、自分も含めて日本の子供たちは気持ちが弱いのかと思う反面、「子供」というのは世界どこでも変わらなくて、守らなければならない、健やかに育つことのできる環境を整えなければならないと思いました。

人間は人を殺せるということはずっと目を向けたくなかったことだけれど、本当のことかもしれないと思います。けど、それに気づけば、人間は戦争を止めることができるだろうと思います。人災であるならば、前向きに戦争をなくす道を模索できないかと思います。以前、沖縄の方のお話を聞いたとき、「頑張ってください」という本土の人は無責任だというのを聞きました。日本の中で、戦争のこと、海外のことは、自分に関係がないというふうに考えている人が多いと思います。

(市民)

現場実態をふまえた大変良い話であった。会場人員が少ないのは、少し問題だと思った。もっと学生が来場すると思ったが大変少ない。今後、日本の将来に若い人たちがこの様な会に出ないというのは大変憂いを残した。マスコミの影響も大きいのではないか。日本のマスコミは脱政治化し、長井さんは見殺しにしているし、政府の給油問題ばかりを放送している為。給油に賛成論が増えてきている。もっとマスコミに抗議すべきと思う。

(元大学教職員)

とてもすばらしい講演でした。(正直思っていた以上に)。流暢な語り口、あふえるばかりの思いに感動しました。でも、憎しみの連鎖、争いの連鎖に絶望的にも思える状況をどう変えていったらいいのか。日本の役割(悪しき役割でなく)私たちの役割も大きいのですね。一人一人がやれることを(しないとイケない)。経済の発展が必ずしも国民を救うのではないという郡山さんの意見に賛成です。精神と、経済・物質とのバランスが現代は崩れているのでは。

(元大学教職員)

郡山さんが大変危険な中、私たちに何が起きているかを知らせて下さるために、日夜奮闘されていることに心より敬意を表します。自分の背中をドンとたたかれた感じです。自分のこれからの姿勢を正されました。私にもできること、自分の子供や日本の未来のために一つずつ頑張ります。聞く人が少なく本当に残念です。郡山さん、ありがとうございました。

(大学生)

ご多忙の中、ご講演をいただきありがとうございました。また、企画して下さった愛知・大学人の会の方々、ありがとうございます。現実としてみてこられた戦争が残した悲惨な事実、明らかになっていない事実を語られ、かなり深刻な問題で、根の深いものであることがよく分かりました。しかし、全く他人事ではなく、日本人や日本の政府が関係しているということに、自分も身近な問題として捉えなければならぬと感じました。ごみ捨て場で働いている子供の話の中で、親が教育を受けさせても結局働くことにつながらないので、教育を子供に受けさせないという話を聞き、文化の違いとか、私たちの常識と全くちがうのだなと思いました。私たちには正しいと思うことでも、彼らにとって迷惑なことではないということもあるのかも知れません。「押し付け」をしないように、彼らのために私たちができる、本当に彼らが望むことは何かと考えさせられました。

自分も平和活動に少し関わり、「知ってしまった」側の人間でもあります。自分が生活する中で彼らのことを思い、自分にできること、伝えていくべきことを考えて、行動に移していきたいと思いました。まずは、この国が間違った方向に行って、さらなる人災を増やすことがないように声を上げていきたいと思います。今日の講演で勇気とやる気をいただきました。ありがとうございました。

愛知・大学人ネットワーク

講演と交流の集いの記録

愛知・大学人ネットワーク事務局では、各大学九条の会と呼びかけ人の方々の参加を呼びかけて、昨年6月2日に、講演と交流の集いを労働会館本館会議室で開催しました。

第一部では、私の戦争体験と憲法九条への想いというテーマで、青木みかさん（名古屋女子大学名誉教授）と寺尾光身さん（名古屋工業大学名誉教授）のお二人にお話いただきました。

青木先生は、1923年生まれでして、1944年に結婚。1945年にはご主人が日本海で戦死。また実弟は広島で被爆されたという経験にもとづき憲法への想いを語られました。

寺尾先生は、1935年生まれ。戦争中集団疎開を経験し、東京の実家は戦災で消失。1954年の第五福竜丸事件直後に大学入学。第一回原水爆禁止世界大会に参加された経験をもっておられます。これらの経験が、現在、名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援するなど、平和活動や環境保護の活動の基礎となっていることなどを話されました。第二部では、各大学九条の会の活動が報告されました。参加者32名。（この内容は、以下の各大学九条の会の活動の記録とネットワークホームページを御覧ください）。

各大学九条の会の活動

日本福祉大学九条の会

- (1) 2007年4月14日(土) 平和講演会&日本福祉大学九条の会第3回総会
高遠菜穂子氏「命に国境はない～“最も危険な国”イラクに支援は届くのか?～」
参加者約250名
- (2) 2007年6月26日(火) ミニ講演会
牧洋子氏(日本福祉大学社会福祉学部教員)
「敗戦後から出発した人生―被爆者支援活動から学ぶ平和の大事さ」参加者約40名
- (3) 2007年9月25日(火) 夏休み中の活動報告会 原水禁世界大会参加学生からの報告等参加者約15名
- (4) 2007年11月10日(土) 平和講演会
東恩納琢磨氏(「じゅごんの里」代表)「ジュゴンの海に米軍基地はいらない!―辺野古・大浦湾の豊かな自然を守ろう!」参加者約250名
- (5) 2008年3月19日(水) ミニ講演会 (予定)
野崎泰志氏(日本福祉大学福祉経営学部教員)
「戦時性奴隷・首相靖国参拝・歴史認識―学生たちはどう受け止めたか」

東邦学園九条の会

- (1) 2007年6月26日(火) 長峯信彦さん(愛知大学准教授)講演「なぜ憲法九条を変えてはいけないか」と声楽家矢内淑子による「なつかし日本の歌・いのちの歌」。参加者約50名(名東九条の会と共催)

愛知大学九条の会

- (1) 2007年2月24日 長峯信彦さん(愛知大学准教授)講演「現憲法に結実した日本人の憲法草案―輝きを失わない鈴木安蔵らの草案―」。
「東海放送九条の会」との共催で開催(車道校舎)。参加者数:約70人。
- (2) 同年4月14日 小林武さん(愛知大学教授)講演「憲法改正の手法を、いま、なぜつくるのか」。車道校舎参加者数約20人。
- (3) 同年7月3日 チャールズ・オーバービーさん講演「今こそ九条―アメリカからみた日本国憲法」。共同研究「女性科学者のリーダーシップ」主催の講演会に「第9条の会なごや」とともに協力(車道校舎)。参加者数約240人。なお、当日、「日本の青空」愛大の会・愛知大学同窓会共催の「日本の青空」上映に協力。
- (4) 同年7月7日 愛大九条の会設立一周年記念シンポジウムを愛知大学国際問題研究所および愛知大学法学会との共催で開催(車道校舎)。参加者数:約75人。

テーマ:「憲法九条と日本の未来」 パネラー:奥平康弘氏(東京大学名誉教授)、児玉克哉氏(三重大学教授)、サーラ・スヴェン氏(東京大学准教授) コーディネーター:加々美光行氏(愛知大学国際中国研究センター所長)

- (5) 同年11月4日 第一部:「日本の青空」上映。第二部:加々美光行さん(愛知大学国際中国研究センター所長)講演「憲法が変えられようとしている時代に私たちは何を考えるのか?」愛大祭実行委員会主催企画を後援(豊橋校舎)。参加者数:約35人。
- (6) 同年11月10日 前田哲男さん(軍事評論家)講演「九条こそ日本の安全保障」。「東海放送人九条の会」との共催で開催(車道校舎)。参加者数:約65人。
- (7) 2008年1月26日 安斎育郎さん(立命館大学国際平和ミュージアム館長)講演「改憲は未来を左右する---『国のウソ』を見抜き抵抗を」。「第9条の会なごや」との共催、名古屋YWCAの協力で開催 会場名古屋YWCA。参加者数 約120名。

名古屋大学九条の会

- (1) 2007年6月6日(水) チャールズ・オーバービーさん講演会。約100名参加。
- (2) 同年6月9・10日(土・日) 名大祭・有志企画「ミニ平和資料館」展示企画「千種区に残る戦争遺跡」・特別企画「戦争体験を聞く会」 約400名来場
- (3) 同年6月10日(土) 映画「日本の青空」上映と 長谷川正安さん(名古屋大学名誉教授)講演(名古屋大学東山キャンパス)。約250人参加。
- (4) 同年7月23日(月) 名大九条の会年次総会 参加者20名
- (5) 同年10月20日 映画「日本の青空」鶴舞上映会(名古屋大学医学部)。
森英樹さん(名古屋大学名誉教授)講演。参加者約120名。

名古屋市立大学九条の会

- (1) 2007年3月7日(水)、4月17日(火)、4月19日(木)ビデオ上映会。参加者はそれぞれ約10名。
- (2) 2007年11月17日(土)15時から16時30分 森正さん講演「若者と憲法」。参加者18名。

名古屋芸術大学九条の会

- (1) 2007年10月28日(日)名古屋芸術大学大学祭における「九条の会バザー」開催。午前10時から午後3時。
- (2) 2008年1月17日(木)午後5時30分から。名芸大九条の会コンサート開催。

(活動資金カンパのお願い)

憲法「九条の会」アピールに賛同する愛知・大学人ネットワークは、各大学九条の活動を促進のためのネットワーク組織ですので、会員制度も・会費もありません。これまでのネットワーク事務局のニュースの発行・講演・交流会などの活動は、講演会・交流会の参加いただいた方や会事務局に送っていただいたカンパによってまかなわれています。さいわい設立時の講演会で、多額のカン

パが集まりましたので、それが一番の資金源となってきました。しかし、この間の活動で、その資金も少なくなり、特に昨年の郡山氏の講演会は、講師を遠くから呼んだわりに参加者が少なく、赤字になってしまいました(講演会出費94,000円)。事務局では、急遽身近な方にカンパを呼びかけ、現在は22,000円の残金まで回復しております。そのため、このニュースの発送等当面の活動の維持はなんとか可能となりましたが、今後の活動の企画をたてる資金がない状態となっています。振込み用紙をお送りいたしますので、お送りくだされば幸いです。

(発行人) 憲法「九条の会」アピールに賛同する愛知・大学人ネットワーク事務局
(連絡先) 東海私大教連(担当片山) 電話 052-883-6969 FAX052-883-6968
(ホームページ) http://www.geocities.jp/daigaku_aichi_9/
(会費・カンパ振込み先) 「九条の会」愛知・大学人 0860-0-186906